

令和4年 3月 30日

（あて先）熊本市長

団体名 NPO法人くまもと新創生プロジェクト
代表者 職名 代表理事 氏名 大村 祐二



熊本市市民公益活動支援助成金実績報告書

令和4年2月18日付け指令（地活）第49号により、熊本市市民公益活動支援助成金の交付決定

☒を受けました事業の実績について、熊本市市民公益活動支援基金実施要綱第21条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

1 助成事業名 ステップアップ助成

くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」助成事業
世界に誇る「くまもとの水」啓発応援事業

2 助成事業の実施期間

令和3年6月 10日 ～ 令和4年 3月 29日

3 助成事業の内容

世界に誇る「くまもとの水」啓発応援事業

くまもとの水を多角的な視点で熊本市民に知ってもらうために、講座を2回に分けて行った。パネラーとして熊本市に住む郷土愛好家にそれぞれの視点で「熊本の川とその文化、息づく人々の暮らし」と題し坪井川、加勢川、緑川、井芹川など、川にまつわる話とそこに暮らす人々の文化の歴史を話し合った。2回目は「金峰山を知ろう」と題し、日本名水百選にも選ばれた金峰山水系のことや知っているようで知らない金峰山のことを話し合った。また熊本の水をわかりやすくまとめた英文の小冊子を作成した。コロナ禍で予定変更などあったが、水を通して熊本市の水の歴史の奥深さを知ることができ、またお互いの交流を深める機会となった。

4 事業の成果

熊本市のすばらしさはそこに住む人がいかに熊本市を誇れるかが大事である。歴史と同時に今ある「水」という恵みのすごさを知り、いつくしむことが熊本市の発展の基礎となることを再認識できた。コロナ禍という社会状況下で、より市民にとってくまもとの水という、どこにも負けない財産を持っていることを知る機会となった。

5 助成事業の実施状況

- (1) 事業収支決算書（様式第16号）
- (2) 事業の経過又は成果を証する書類等
- (3) その他参考となる資料

事業収支決算書

◆収入決算

項 目	金 額	内 訳
会費		
当該事業による収益		
当該事業に対する寄附・協賛金	130,000 円	
その他の自己資金	55,060 円	
当該事業に対する助成金額	150,000 円	
その他の補助金、助成金等【D】		
合 計	335,060 円	

◆支出決算（事業別）

事業名 支出費目	事業1	事業2	事業3	合計
	くまもとの水 講座 2回	くまもとの水の手 引き 500部		
人件費				
報償費	40,000			40,000
旅費				
人件費等合計【A】	40,000			40,000
役務費				
使用料・賃借料	5,060			5,060
事務・消耗品費				
委託費	50,000	240,000		290,000
合計	95,060	240,000		335,060

助成申請上限額（助成種別： ステップアップ 助成）

[事業費 335,060 - 控除額【E】 0] × 2 / 3 = 223,373

※控除額…超過人件費（人件費等の合計が事業費の 1/2 を超えた部分）とその他助成金の合計

人件費等の合計【A】	40,000	→	超過人件費【C】※	0
事業費の 1/2【B】	167,530		その他助成金【D】	0
超過人件費【A-B】…【C】	- 127,530		控除額【E】	0

※マイナスの場合は0円

◆支出内訳（事業別）

事業1〔くまもとの水 講座〕

人件費	
報償費	講師謝金 @10,000×4人
旅費	
役務費	
使用料・賃借料	熊本県民交流会館パレア 5,060円
事務・消耗品費	
委託費	レジメ印刷代 16,000円×2回、チラシ500枚 1万8千円

事業2〔くまもとの水の手引き〕

人件費	
報償費	
旅費	
役務費	
使用料・賃借料	
事務・消耗品費	
委託費	小冊子印刷費（デザイン料込）500部 240,000円

事業3〔

人件費	
報償費	
旅費	
役務費	
使用料・賃借料	
事務・消耗品費	
委託費	

事業報告書

実施年度	2021 年度
事業名	くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」助成事業 世界に誇る「くまもとの水」啓発応援事業
事業期間	令和３年６月１０日 ～ 令和４年３月２９日
事業の目的	「くまもとの水」に今まで以上にスポットがあてられている。緑化フェアや水サミットなども行われる。しかしそれを行政だけに頼るのではなく、市民レベルで深く認知してもらう取り組みが必要。令和２年度に続き今年度も継続して市民へ本質的な水のこと、いかに市民の財産であるかを知ってもらい、将来に渡り熊本の水を、市民により県外海外の人に紹介しもてなすもとにしたいと取り組みました。
具体的な事業内容	① 熊本の川と人々の暮らし 12月4日 あいぽーと 参加人数 18名 古代から人々は川のほとりで暮らし、邑を作ってきた。その遺伝子は悠久の時を超え私たちに残っている。白川、加勢川、井芹川、坪井川など、熊本市には縦横無尽に水のある暮らしがあった。その歴史を３人のパネラーとともに話し合った。 ② 金峰山を知ろう 3月6日 県民交流会館パレア 参加人数 24名 金峰山は熊本市民にとって、夕日が沈む西のお山としてなじみが深い山であるにも関わらず、どんなお山か知っている人は少ない。日本名水百選にも選ばれている水の宝庫であり、祈りの山であった。これらのことを深く掘り下げた。 ③ 冊子の作成 24 ページ 500 部 講座の内容を中心に、今後増えると予想される海外の人向けに、英語バージョンでわかりやすく伝わるように作成した。
実施場所	あいぽーと、熊本県民交流会館パレア
協力団体	熊本市緑化フェア事務局・商工会議所・熊本地名研究会ほか
事業の効果・公益性	今回の事業は、くまもとの水を多角的に理解してもらう取り組みにし、かつ専門性の高いものにせず、まったく知らない人でも理解しやすい内容にすることで、広く市民の心に浸透する取り組みを行った。またテキストを作成することで、熊本の水のことを海外の人まで理解し伝わるように仕向けたいと考えている。
次年度以降の事業展望	テキストから展開し、海外の人や熊本に在住の海外、県外の人向けに熊本の水のことを知ってもらうように、根気よく取り組みをしていきたい。
事業への思い (当事業によってどのような熊本市にしていきたいか)	熊本市民だけが住む、自分達だけの熊本市ではなく、水という財産を通して多くの人にとっても住みやすく、かつまた来てみたい都市であることが、あるべき熊本市にとって、将来にわたって発展していく都市像だと考える。